

国立国語研究所学術情報リポジトリ

編集後記

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 浅原, 正幸 メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/3200

編集後記

今回のワークショップでは、42件のポスター発表がありました。オンライン開催にもかかわらず、発表申込をしてくださった方々に感謝いたします。当初予定の OSF Meeting を用いた発表の準備が滞っており、急遽開催1週間前に、Slack を用いた発表に切り替えました。開催に際しまして、以下の点に注意して準備しました：

- ・ポスター1件ごとに「チャンネル」を作成し、登録時にすべての参加者がすべてのチャンネルに自動的に登録するように設定する
- ・チャンネルは、発表者の裁量で Youtube 配信・Zoom による発表などできるようにする
- ・ポスター発表には、コミュニケーションをとるための「コアタイム」を無理のない1時間程度設定する
- ・ポスター発表のコアタイム間は、適度なインターバルをあける
- ・参加者を Slack に誘導するべく、セッション開始5分前に「自動配信メール」を送る
- ・当日参加者にも、「自動返答フォーム」により、当日行われる発表の Slack の各チャンネルの URL を送る
- ・ポスター発表間に、講習会動画セッション・KOTONOHA 検索コンテスト 2020 を開催し、「zoom」(300人まで参加)と「Youtube」にて配信する

オンライン開催では、過去最大の422人の参加申込(海外71人、学生123人)があり、Slackの参加者数340人、Zoomの参加者数274人(9/8)・176人(9/9)、Youtube視聴304回132.9時間(9/8)・142回67.6時間(9/9)と、多様な形態でご参加くださいました。どうもありがとうございました。

また、優秀発表賞となる発表が6件ありました。その中で、金沢大学の南亜希子氏の発表「外来語サ変動詞における日本語母語話者の許容状況 —I-JAS に基づく例文を用いた調査から—」が受賞しました。おめでとうございます。

言語資源活用ワークショップは、次回が最終回となります。対面形式になるかオンライン形式になるか、情勢は不透明ですが、今回の経験に基づき、しっかりと準備してまいりたいと思います。

国立国語研究所
コーパス開発センター
浅原正幸